

<今回>221回目 2017年10月27(金)16時~18時 601号室
読書は9冊目「邪馬壹国の証明」 より

<前回>220回目(17-10-6) 出席者11名
資料 17-10-06-1)前回のまとめ(清水)
-2)川越市山王塚古墳資料(高山)

A 報告

今日から淀川さん、岡田氏の両名が初参加していただいた。どんな雰囲気で行われているか知っていただいて、慣れて頂きたい。改良すべき点を気づいたら是非教えて頂いて充実したものとしたい。

本日でこの「邪馬壹国の論理は」終わりにして、次回から「邪馬壹国の証明」を読みたい。文庫本しかないから大墨さんにアマゾンから入手してもらおう予定で3冊注文する。

懇親会9名 津多屋18627円(9・2000)-627円

B 資料 2)上円下方墳の報告資料が纏められていた。府中熊野神社古墳との大きさの関係や葺石の有無などよくわかる資料で、詳しく知りたい方は高山氏にもらってコピーしてください。山王塚の方が熊野よりかなり大きい。ここでは奈良の石舞台古墳も上円下方墳に分類されている。(教育委員会資料)

C 読書 p378続推理小説のモラル より

1)高木彬光氏の「小説推理」50年5月号の「邪馬台国推理考補遺」を読んで失望した。謝辞は全くない。光文社の方が3月号に載った古田さんの「推理小説のモラル」の論旨は全くその通りと考えています。として昭和49年11月13日版で絶版の処置をとったと言われていた。

2)術学的な弁証で、一方だけみていたら、幻惑されるかもしれないと思った。白馬は馬でないたぐいの論。

3)原文改定問題。高木氏はよく要約している。予め古田の本を見ていたと明言しておられる。(小説推理 49年11月号 320頁)なのに平然と前人未踏といい、引用謝罪の言葉もない。

4)中学生にもわかる道理として1里140mを提示して、古田の短里説と2つ並べて140を採用した。これは韓地の4千里4方と照合すれば不可なのは中学生でも解る道理である。

5)不彌国玄関説、総日程説は同じでも、島巡り半周説と余里説とで異なるという。そして製法特許と製品特許の論争に持ち込もうとされる。

6)2倍年暦は誰でも簡単にわかるともいう。(346頁)

7)宗像上陸説は全く自分の独創だという。直木孝次郎(同窓生)との対談で古田の独創と言っている。本が1個の独立作品である事実を無視されている。雑誌では古田の独創を認めているから非模倣説の証拠に使おうとしている。

8)不彌国玄関説、韓国内デモンストレーションというのは用語を含めて全くの古田説である。内容の転写(松本清張)を自己独創とする無断借用(盗用)の跡は歴然である。

9)水かけ論には終わらせない。このまま謝罪がなければ高木の隠された恥部を公にするつもりである。素直な謝辞の表明と実行だけある。

次回日程 17-1-6(月) 15時から18時 601号室
11-20((月)15時から17時 602号室
12-4(月) 15時から18時601会議室